

「光老化」啓発プロジェクト発足

NPO 法人 皮膚の健康研究機構「光老化」啓発プロジェクト委員会は、一般市民に対し、太陽光線（赤外線、可視光線、紫外線）による身体への障害（皮膚の老徴、皮膚がん、白内障など）の理解を深め、光老化についての認知度の向上並びに、光老化対策を通じ、健康増進に貢献する業界、団体、医療関係者とともに、一般消費者に対して活動を知ってもらうため、「光老化」啓発プロジェクトを立ち上げた。2015年12月7日、東京（日経・大手町セミナールーム2）にてプロジェクト発足の説明会が行われた。活動対象は一般市民全般に対して行い、実施期間は2016年1月～2017年6月を予定している。

本プロジェクトは以下を目的としている。

- 1) サンスクリーン製剤の効能表現「日常的に使用することにより光老化を防ぐ」の新規取得をめざし、適正使用を啓発する。
- 2) 白内障ほかの構成による眼障害を眼鏡などで適切に予防することの重要性を啓発する。
- 3) 老徴のみならず皮膚がん予防に通じることを啓発し、国民の健康増進医療費削減に寄与する。

「光老化」啓発プロジェクト委員会の設立発起人は以下のとおり。

東京女子医科大学皮膚科教授 川島 眞 氏
 近畿大学皮膚科教授 川田 暁 氏
 神戸大学皮膚科教授 錦織 千佳子 氏
 名古屋市立大学皮膚科教授 森田 明理 氏
 京都大学名誉教授 宮地 良樹 氏

説明会では事務局の挨拶並びに発足についての説明があり、東京女子医科大学 川島眞氏、京都大学名誉教授 宮地良樹氏の「光老化」についての講演が行われた。内容は以下の通り。

「光老化」について

紫外線は身体に良い面と悪い面を持ちあわせている。日常生活で浴びてしまう程度の紫外線により、ビタミンD生合成を行う。しかし一方では、光発がん、サンバーン、光アレルギーなどの老化を引き起こす。日光露出部



川島氏



宮地氏

に特徴的な皮膚老徴（シミ、シワ）が生まれ、特に顔皮膚老化の80%は光老化であり、光防御によりコントロールが可能になる。また、白内障などの眼の光老化、肌の光老化だけでなく、皮膚がんにまで及ぶ可能性を発する。

光老化を防ぐには、サンスクリーン、サンクリーン化粧品、サングラス、コンタクト、衣服、ガラスコーティング、フィルム、ジーンズ、ストッキング、シャツ、サングラス、帽子、日傘などで防御することが必要である。特にサンスクリーンは 2 mg/cm^2 という適切な量を正しく塗られていることが重要であるが、多くは 1 mg/cm^2 しか塗られていない現状である。またSPF15以上、PA1+以上のサンスクリーン効果を有する化粧品を日常的に、継続的に使用することで光老化を防ぐことができる。

NPO 法人 皮膚の健康研究機構は2015年10月に12～70歳未満の男女312名（男性156名、女性156名）を対象に「光老化」認知率調査を行った。SPFの意味について正しく答えられた人は全体で17%と少なく、男性12%、女性21%であった。また“SPFの意味を知らない”と答えた人は42%で、そのうち、男性は53%、女性は30%が“分からない”と答えた。また、光老化という言葉を知っている人は全体で4.2%とし、まったく知られていない状況がわかった。サンスクリーンの使用については“日焼け止めを使用しない”と答えた人が男性70%にも上った。

同プロジェクトは、こうした調査なども踏まえ、老若男女問わず、国民全体を啓発対象にし、皮膚科医を中心に医療従事者、学校保健活動、教育現場、薬局、ドラッグチェーンなどに啓発活動を行っていくと語った。

本プロジェクトの問い合わせは特定営利活動法人皮膚の健康研究機構内「光老化」啓発プロジェクト事務局 E-mail:hikarirouka@npo-hifu.net まで。